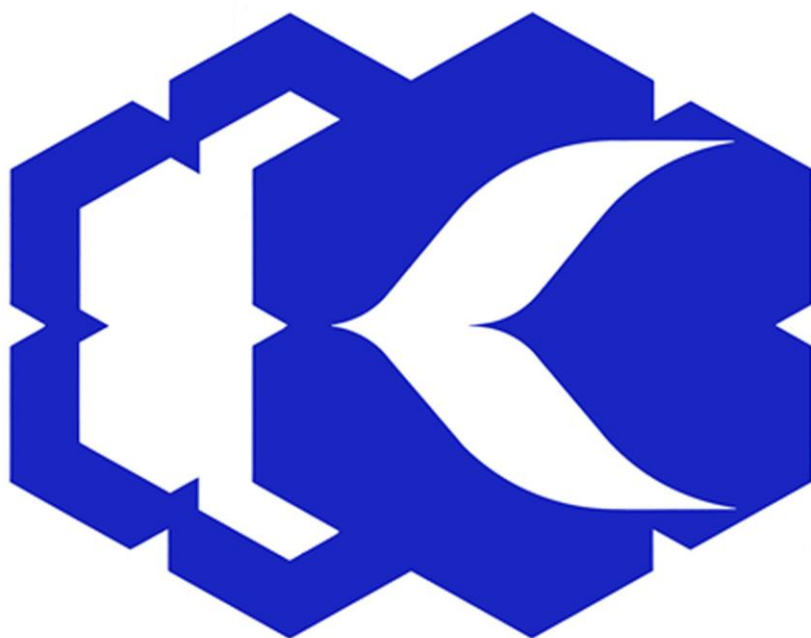


俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (修正案)



平成28年 月

俱 知 安 町

目 次

第1章 倶知安町総合戦略策定にあたって	1
1. はじめに	1
2. 基本的な考え方	1
(1) 人口減少と地域経済縮小の克服	2
(2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立	2
(3) まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則	3
3. 総合計画との関係	3
4. 計画の期間	3
第2章 基本目標	4
1. 倶知安町人口ビジョンを達成するための基本目標	4
(1) 重要業績評価指標（KPI）を重視した目標設定	4
(2) 2つの「基本目標」	5
第3章 基本的方向と具体的施策の数値目標	6
1. 【基本目標1】くっちゃんで、過ごす	6
(1) 魅力ある観光地づくりの推進	6
(2) 外国人との共生	8
2. 【基本目標2】くっちゃんで、暮らす	9
(1) 産業の創出	9
(2) 生活・住環境	11
(3) 子育て・教育	14
第4章 総合戦略の推進体制	16
1. PDCAサイクルの導入	16
2. 地域間の連携推進	16
3. 外部有識者の参画と施策の進捗管理	17

第1章 倶知安町総合戦略策定にあたって

1. はじめに

我が国では、2008年をピークとして人口減少の局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所によると2040年に1億728万人となり、以降は毎年100万人程度のスピードで減少すると推計されています。少子化が進行する中、生産年齢人口の減少と高齢人口の増加による人口構成が大きく変化することにより、経済市場規模の縮小や社会保障費の増加などが懸念されています。

人口減少の克服に向けて、地方に応じた対策を講じ、東京圏への過度な人口の集中を是正するとともに、各地域の特性を活かした自律的かつ持続可能な社会を創生することを目指していくため、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が2014年11月に施行され、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成26年12月に閣議決定されました。

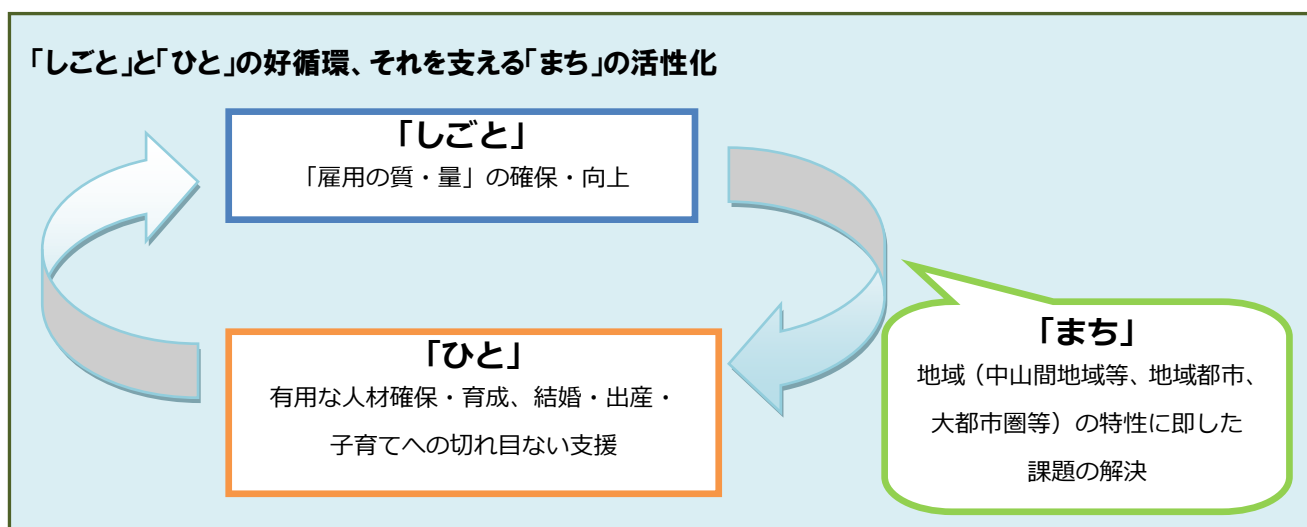
まち・ひと・しごと創生は、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があることから、倶知安町では、国と北海道の長期ビジョンと総合戦略を勘案しつつ、人口減少社会の克服と地方の創生に向け、「倶知安町人口ビジョン」及び「倶知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

2. 基本的な考え方

総合戦略は、人口減少と地域経済縮小を克服するものであり、長期的には地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確かなものにするためのものです。

人口減少問題は地域によって状況や原因が異なります。加えて、将来に向けた地域が抱える課題に応じた対応策が必要となります。

人口減少問題は、国だけでなく、都道府県、市町村が一体となり長期にわたって取り組まなければならないものです。次の世代が暮らしやすい社会になるよう、今から人口減少、少子高齢化への対策を日本全体で講じることが求められています。



（１）人口減少と地域経済縮小の克服

人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるため、以下の基本的視点から、人口、経済、地域社会の課題に対して一体的に取り組むことが重要です。

① 「東京一極集中」を是正する。

地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけ、「東京一極集中」を是正するため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の好循環を実現するとともに、東京圏の活力の維持・向上を図りつつ、過密化・人口集中を軽減し、快適かつ安全・安心な環境を実現する。

② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。

人口減少を克服するために、若い世代が安心して就労し、希望通り結婚し、妊娠・出産・子育てができるような社会経済環境を実現する。

③ 地域の特性に即して地域課題を解決する。

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、中山間地域をはじめ地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるようにする。

（２）まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出します。その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出す取り組みが必要です。

① しごとの創生

地域に根付いたサービス産業の活力、生産性の向上、雇用のミスマッチに対する経済の状況や変動に応じた円滑な対応など、『雇用の質』の確保・向上に注力する。

若い世代が安心して働ける「相応の賃金」＋「安定した雇用形態」＋「やりがいのあるしごと」等の要件を満たす雇用の提供が必要。また地域における女性の活躍を推進する。

地域経済に新たな付加価値を生み出す核となる企業・事業の集中的育成、企業の地方移転、事業承継の円滑化等に取り組み、安定的な『雇用の量』の確保・拡大を実現する。

② ひとの創生

地方への新しい人の流れをつくるため、若者の地方での就労を促すとともに、地域内外の有用な人材を積極的に確保・育成し、地方への移住・定着を促進する仕組みを整備する。

安心して子どもを産み育てられるよう、結婚から妊娠・出産・子育てまで、切れ目のない支援を実現する。

③ まちの創生

それぞれの地域が個性を活かし自立できるよう、ＩＣＴを活用しつつ、まちづくりにおいてイノベーションを起こしていくことが重要。

中山間地域等において地域の絆の中で人々が心豊かに生活できる安全・安心な環境の確保に向けた取り組みを支援するとともに、都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進や、広域的な機能連携、大都市圏等における高齢化・単身化の問題への対応、災害への備えなど、それぞれの地域の特性に即した地域課題の解決と、活性化に取り組む。

（３）まち・ひと・しごとの創生に向けた政策５原則

国は人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、次の５つの政策原則を掲げています。地方自治体においても、この政策５原則に基づきつつ、関連する施策を展開することが必要です。

① 自立性

構造的な問題に対処し、地方自治体、民間事業者、個人等の自立につながる施策にする。

② 将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

③ 地域性

各地域の実態に合った施策を受け手側の視点に立って支援する。

④ 直接性

最大限の成果をあげるため、ひとの移転、しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤ 結果重視

PDCAサイクルの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

3. 総合計画との関係

俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少の抑制と地方の創生に重点をおいて策定します。第５次俱知安町総合計画は本町のまちづくり全般に関わる総合的な最上位計画であり、総合戦略と密接な関係があることから、第５次俱知安町総合計画と整合性を取りつつ、俱知安町人口ビジョンにおいて定める将来人口を目標に地方創生に関する施策を推進していきます。

また、総合戦略の検討において総合計画に位置づけられていない新たな施策が盛り込まれた場合は、総合計画の見直し時に新たに位置づけます。

第５次俱知安町総合計画

俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略
に含まれない部分

俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略

4. 計画の期間

「俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の期間は平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度までの 5 年間とします。第５次総合計画は平成 20（2008）年度～平成 31（2019）年度が計画年です。

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
俱知安町総合戦略													
俱知安町 第５次総合計画													

第2章 基本目標

1. 倶知安町人口ビジョンを達成するための基本目標

国の政策５原則に基づき、まち・ひと・しごとの一体的な創生を図っていくために、倶知安町の地域経済・社会の実態に関する分析を行い、「倶知安町人口ビジョン」を基にして総合戦略を策定し目標を設定します。

（１）重要業績評価指標（KPI）を重視した目標設定

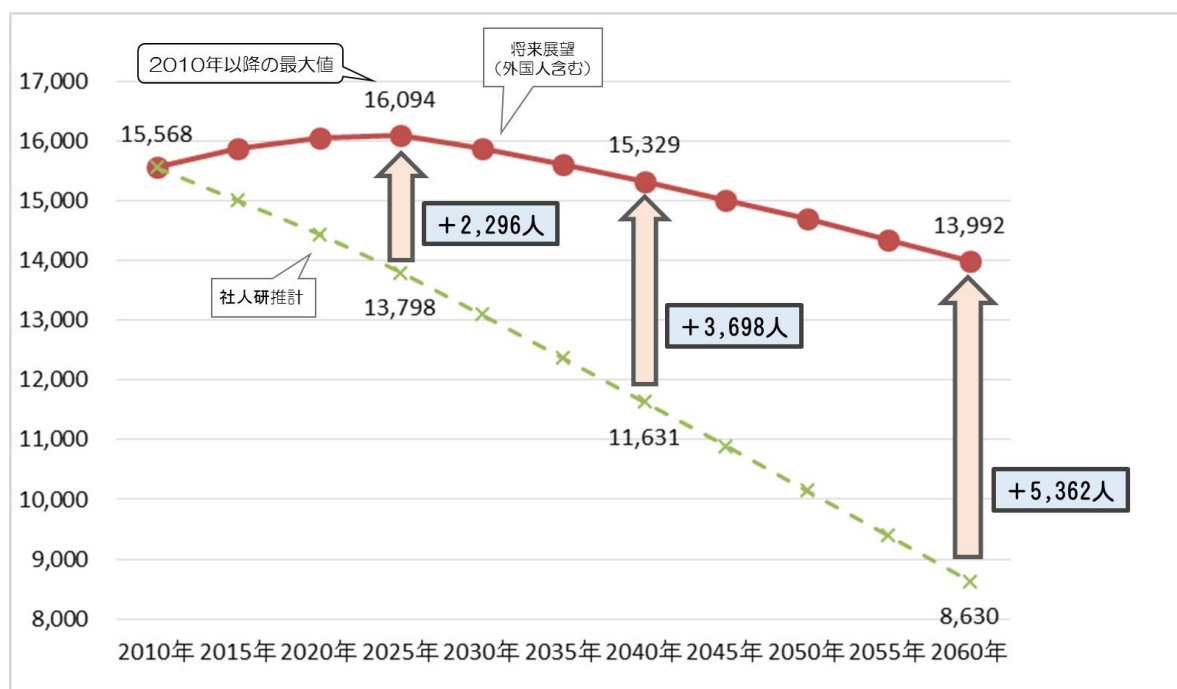
国の「総合戦略」では、政策の「基本目標」を明確に設定し、それに基づく適切な施策を内容とする「政策パッケージ」を提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組み（PDCA サイクル）を確立しています。

倶知安町においても「倶知安町人口ビジョン」が示す人口・経済の中長期展望を踏まえ、実現すべき重要業績評価指標（KPI）を重視した数値目標を設定します。

倶知安町人口ビジョンが示す人口の推移と長期的な見通し

倶知安町人口ビジョンでは、国の長期ビジョンと北海道のまち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえた人口減少の克服を目指す取り組みや、今後想定される外部要因の変化等を考慮し、2040 年時点で 15,329 人、2060 年時点で 13,992 人と推計しています。

■ 倶知安町の人口の推移と長期的な見通し



※2015 年については国勢調査結果が未確定のため、策定時の展望値として推計した数字

「倶知安町人口ビジョン」が示す取り組みの方向性

①豊富な地域資源を活用した、多様な地域社会の形成

人口減少・少子高齢社会を迎える中、活力あるまちであり続けるため、住民が将来にわたって安全・安心で暮らしやすいまちを実現するとともに、地域の玄関口となる北海道新幹線の開通など直面する課題に真正面から取り組み、恵まれた自然環境などを活用して多くの観光客が訪れる「世界に誇れる国際リゾート」へと発展させる。

②若い世代の仕事・雇用、子育て、教育を支援する社会環境の整備

人口減少を緩和し、将来にわたり安定した人口を維持していくため、日本人のみならず外国人も含めた転入者を増加させ、転出者を抑制するとともに、切れ目のない支援により、住民が安心して働き、若者が希望通り結婚し、妊娠、出産、子育てができる社会環境を実現し、「このまちに住み続けたい」と思えるまちづくりを進める。

(2) 2つの「基本目標」

「倶知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、国の基本目標・北海道の基本戦略を勘案し、倶知安町の実情に合わせた基本目標を次のように設定します。

倶知安町の基本目標と、関係する国の基本目標・道の基本戦略

基本目標1：くっちゃんで、過ごす

(「世界に誇れる国際リゾート」「多くの外国人が訪れる多文化共生のまち」)

≪関係する国の基本目標・北海道の基本戦略≫

国：基本目標2・地方への新しいひとの流れをつくる

道：基本戦略3・食や観光をはじめとする力強い産業と雇用の場をつくる

道：基本戦略4・北海道らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

道：基本戦略5・多様性を活かし、北海道らしい連携により地域を形づくる

基本目標2：くっちゃんで、暮らす

(「子どもたちの笑い声が響き、住む人、働く人の笑顔が輝くまち」「帰って来なくなるまち」「住みたくなるリゾート(まち)」)

≪関係する国の基本目標・北海道の基本戦略≫

国：基本目標1・地方における安定した雇用を創出する

国：基本目標2・地方への新しいひとの流れをつくる

国：基本目標3・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

国：基本目標4・時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、
地域と地域を連携する

道：基本戦略1・子どもを生み育てたいという希望をかなえる

道：基本戦略2・住み続けたいと思える生活環境を整える

道：基本戦略3・食や観光をはじめとする力強い産業と雇用の場をつくる

道：基本戦略4・北海道らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

第3章 基本的方向と具体的施策の数値目標

【基本目標1】 くっちゃんで、過ごす

「世界に誇れる国際リゾート」

「多くの外国人が訪れる多文化共生のまち」

倶知安町は、外国人観光客の増加や海外投資による condominium 等の建設によって、国際リゾート地へと発展を続けています。この強みを活かし、観光客を中心とした交流人口を増加させ、魅力あるまちづくりを展開することで、人口減少の緩和を図ります。

5年後の数値目標

- ・観光入込客数 170 万人（H31）
- ・外国人観光客宿泊延べ数 35 万人（H31）

基本的方向

（1）魅力ある観光地づくりの推進

国内外から多くの人々が訪れる「世界に誇る国際リゾート」を目指し、「ニセコひらふ」のブランド価値を更に高めるため総合的な環境整備に取り組み、幅広く連携したこの地域ならではの魅力を活かした観光地づくりを推進します。

具体的な施策

①地域の魅力を活かしたプロモーション活動の推進と、広域的な連携を通じた通年型観光地の実現

重要業績評価指標
（KPI）

観光入込客数 154 万人（H26）→170 万人（H31）

【主な事業内容】

- ・海外及び国内観光客向けに地域の魅力を訴求する観光プロモーションを行います
- ・通年型観光地への推進のため、国内外の幅広い世代層に夏季の長期滞在提案を行います

・北海道新幹線、高速道路の開通後に向けて、北海道や後志管内町村はもとより、西胆振地域、道南地域などとの広域観光連携に取り組みます

②多くの観光客が訪れるニセコひらふエリアをはじめとした、広域的な連携による環境整備

重要業績評価指標 (K P I)	宿泊客延べ数 97 万人 (H26) →117 万人 (H31)
---------------------	----------------------------------

【主な事業内容】

- ・ ひらふエリアの整備を継続し、訪れた人々に観光スポット等がわかりやすい環境づくりを推進します
- ・ 観光分野での広域連携を推進し、観光客の受け入れ環境の整備を進めるとともに、すべてのスキー場利用者の安全のために作られた地域の公式ルールであるニセコルールの維持強化を図ります
- ・ 通年型観光地化の実現に向けて、夏場でも安心して周遊観光を行えるよう広域連携による情報提供環境の整備を推進します
- ・ 既存の行政サービスと新たな行政サービスについて検討します

③誰もが安心して受診できる医療サービスの確保

重要業績評価指標 (K P I)	町内常勤医師数 31 人 (H26) →34 人 (H31)
---------------------	--------------------------------

【主な事業内容】

- ・ 町民はもとより、外国人を含む観光客が安心して受診できる医療体制を確保する取り組みを推進します

④利便性の高い公共交通の整備

重要業績評価指標 (K P I)	生活路線バス・じゃがりん号利用増加率 3 % 増 (H27 事業年度比)
---------------------	--------------------------------------

【主な事業内容】

- ・ 公共交通の運行に関する情報提供を行いながら、域内のよりよい交通体系への検討を進めます

基本的方向

(2)外国人との共生

外国人観光客が多く訪れる地域特性に対応するため、外国人と共生できるまちづくりを推進します。

具体的な施策

①倶知安町を訪れた外国人が情報を得やすい環境の整備

重要業績評価指標 (K P I)	外国語対応可能職員数 3 人 (H27) → 7 人 (H31)
---------------------	----------------------------------

【主な事業内容】

- ・外国人観光客が必要な情報を入手しやすい環境を整備し、過ごしやすいまちづくりを推進します
- ・来庁する外国人の対応向上に取り組み、スムーズな窓口対応を実現します

②目指すべき国際リゾート地として、文化の相互理解を深めるための国際交流の促進

重要業績評価指標 (K P I)	海外研修等参加人数（累計）2 人 (H26) → 26 人 (H31)
---------------------	-------------------------------------

【主な事業内容】

- ・海外研修・交流事業を通じ、地元住民と外国人の交流を促進することで相互理解を深めます

③多文化共生のまちづくりに向けた英語研修事業の実施

重要業績評価指標 (K P I)	英語教室受講者数（累計）48 人 (H27) → 208 人 (H31)
---------------------	--------------------------------------

【主な事業内容】

- ・外国人観光客、移住者の増加など急速な国際化が進む中、国際リゾート地として多文化共生のまちづくりを進めていくために、町民の英語力向上に向けた英語研修事業を実施します

・北海道後志総合振興局と連携して、グローバル人材の育成に取り組みます

【基本目標2】 くっちゃんで、暮らす

「子どもたちの笑い声が響き、住む人、働く人の笑顔が
輝くまち」

「帰って来たくなるまち」

「住みたくなるリゾート（まち）」

俱知安町の自然豊かで外国人が多く暮らす多文化共生のリゾート地という強みを活かして、人種や世代を超えた多くの人々が『このまちで暮らしたい』と思えるような環境づくりを推進し、出生率の向上や社会増による人口減少の緩和を図ります。

5年後の数値目標

・人口 16,068人（H32 国勢調査人口）

基本的方向

（1）産業の創出

恵まれながらも厳しい自然環境に囲まれた俱知安町で暮らすために、活力ある地域経済を育み、いろいろな地域から俱知安町に来た人材が働ける場所づくりが求められています。この要望に応えるため、俱知安町の基幹産業である農業をはじめ、地域の強みを活かした地域経済の活性化を図ります。

具体的な施策

①中心市街地の活性化に向けた取り組み

重要業績評価指標
（KPI）

歩行者通行量 508人（H26）→645人（H31）

【主な事業内容】

- ・来訪者・住民の買い物環境を充実させるため、商店街と協力して中心市街地活性化を推進します

②起業者・雇用に対する支援

重要業績評価指標 (K P I)	空き店舗数 24 店舗 (H26) → 19 店舗 (H31) 法人農家数 16 法人 (H26) → 21 法人 (H31) 農業新規参入者数 (累計) 0 人 (H26) → 3 人 (H31) 婚活イベント等での成婚者数 (累計) 0 組 (H26) → 2 組 (H31)
---------------------	---

【主な事業内容】

- ・中心商店街の空き店舗を利用して、小売商業又はサービス業を営む店舗等として出店しようとする者を補助します
- ・基幹産業である農業を支援し、起業・雇用促進につなげます

送り仮名の修正

③年間を通じての職場の確保と受入体制の整備

重要業績評価指標 (K P I)	通年雇用化 4 人/年 (H26) → 5 人/年 (H31) ※羊蹄山麓季節労働者通年雇用促進協議会事業との連携
---------------------	--

【主な事業内容】

- ・季節労働者の通年雇用に向けた資格取得の支援を実施します
- ・外国人労働者の積極的な雇用を促進します
- ・冬季に町を訪れる若者の定住化を推進します

・北海道後志総合振興局と連携して、短期滞在者の通年雇用化による産業の担い手確保を図ります

④地場産業の強化と農作物の加工・販売の促進

重要業績評価指標 (K P I)	直売等取り組み農家戸数 20 戸 (H26) → 25 戸 (H31) 農家戸数 (減少の緩和) 185 戸 (H26) → 170 戸 (H31) 6 次産業化の取り組み件数 1 件 (H26) → 2 件 (H31) 倶知安産農産物を使用した商品化数 12 個 (H26) → 15 個 (H31)
---------------------	--

【主な事業内容】

- ・農業の活性化を支援するため、地場産農作物の加工・販売の取り組みを推進します

・北海道後志総合振興局と連携して、担い手の確保や収益性の向上に向けた取り組みを推進し、商品開発や情報発信などにより、高付加価値化やブランド化を推進します

基本的方向

(2)生活・住環境

有数の豪雪地帯である倶知安町でも日々の生活を安心して過ごせるように、買い物などの生活環境の更なる改善、また、北海道新幹線や高速道路の開通を見据えた地域交通の確保と周辺地域の「玄関口」としての災害等への対応など、様々な分野の機能確保に向け取り組みます。

定住のための住宅環境整備として、既存住宅の改修や新築住宅の建設促進し、子どもからお年寄りまでの住民が、他ではなくここに住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

具体的な施策

①官民連携による移住・定住のための住宅整備

重要業績評価指標 (KPI)	町住申込件数 67 件/年 (H26) →65 件/年 (H31) 新築住宅確認申請件数 33 件/年 (H26) →37 件/年 (H31) 住宅改修事業申込件数 15 件/年 (H26) →28 件/年 (H31)
-------------------	---

【主な事業内容】

- ・自然環境の厳しい倶知安町でも快適に暮らせる住宅の整備を推進します
- ・民間の賃貸住宅事業者と連携し、住宅を無駄なく利活用できる体制整備を推進します
- ・賃貸住宅不足を解消し定住につなげるため、新築住宅建設促進を図ります

②空き家対策による地方移住の推進や良質な景観の確保

重要業績評価指標 (KPI)	空き家物件数 145 軒 (H26) →116 軒 (H31)
-------------------	---------------------------------

【主な事業内容】

- ・移住・定住の促進やリゾート地としての景観対策のため、空き家の活用・撤去を推進します

・「しりべし空き家BANK」事業を活用して、移住促進や高齢者・子育て世帯の住み替えの促進など居住環境の整備を図ります

③誰もが生活しやすい環境整備

重要業績評価指標 (K P I)	住みやすさ満足度 70% (H31) ※アンケート調査実施
---------------------	----------------------------------

【主な事業内容】

- ・清潔な衛生環境を推進するため、より良いごみ収集体制を検討します
- ・豪雪地帯である倶知安町の冬でも暮らしやすい生活環境を維持する取り組みを推進します
- ・高質で、暮らしたくなるまちづくりの取り組みを推進します

④防災・防犯など、安全な地域をつくる取り組み

重要業績評価指標 (K P I)	事件事故件数 137 件 (H26) →123 件 (H31) 自主防災組織加入者数 (累計) 357 人 (H26) →12,550 人 (H31)
---------------------	--

【主な事業内容】

- ・犯罪のない安全・安心のまちづくりを推進します
- ・災害に強いまちづくりの取り組みを推進し、関係機関との連携強化を図ります

⑤社会情勢・交通環境の変化に対応した、便利で快適なまちづくりのための取り組み

重要業績評価指標 (K P I)	生活路線バス・じゃがりん号利用増加率 3 % 増 (H27 事業年度比)
---------------------	--------------------------------------

【主な事業内容】

- ・北海道新幹線、高速道路の開通を見据えたまちづくりを推進します
- ・利用しやすい公共交通の運行に関する情報提供を推進し、域内のよりよい交通体系への検討を進めます

⑥誰もが安心して生活できる医療体制の整備

重要業績評価指標 (KPI)	地元分娩率 63.6% (H26) →70% (H31) 町内常勤医師数 31 人 (H26) →34 人 (H31) 医療費助成対象者数 1,294 人 (H26) →2,400 人 (H31)
-------------------	--

【主な事業内容】

- ・ 俱知安町で安心して出産・子育てできる医療体制を確保する取り組みを推進します
- ・ 救急・在宅医療など地域に必要な医療体制を確保する取り組みを推進します
- ・ 子どものいる世帯が無理なく受診できる取り組みを推進します

⑦在宅生活を支える相談支援・サービス体制の強化と、社会参加や支え合い活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	除雪ヘルパー利用者数 158 人 (H26) →174 人 (H31) 生活支援サービス利用者数 345 人 (H26) →500 人 (H31) ワンストップサービス利用者数 294 人 (H26) →400 人 (H31)
-------------------	---

【主な事業内容】

- ・ 高齢者等で除雪が困難な世帯への支援を促進します
- ・ 各種在宅サービスを活用した見守り活動を推進します
- ・ 介護保険制度による各種介護サービスを充実します
- ・ 認知症高齢者の早期発見・早期対応の体制整備を総合的に推進します
- ・ 医療と介護の連携強化を図ります
- ・ 高齢者ワンストップサービスによる多様で柔軟な支援を実施します
- ・ 新総合事業による多様な介護予防・生活支援サービスを促進します
- ・ 多様な施設、団体を活用した社会参加への取り組みを推進します

基本的方向

(3)子育て・教育

母親が健やかに出産を迎え、子どもが健やかに育つために、出産や子育てが行える環境を整備します。出産から子育てにわたり切れ目のない対策を講じるとともに、各種支援を充実させることで子育て世代が住みやすいまちづくりを推進します。

また、進学や就職などで一度は故郷を離れた子どもたちが、将来的に再び生まれ育った故郷に帰って来くなるような郷土愛を育むため、俱知安町の豊かな自然環境を活用した体験活動を実施します。

あわせて、国際色豊かな地域の特性を活かして住民が英語に触れる機会を設け、英語能力向上を促進して外国人との共生のまちづくりを推進します。

具体的な施策

①家族が安心して妊娠・出産・育児・子育てを行える環境の整備

重要業績評価指標 (KPI)	健診事業受診率 97.2% (H26) →100% (H31) 放課後及び保育等時間外における支援制度利用者数 就学児 176 人 (H26) →240 人 (H31) 未就学児 250 人 (H26) →300 人 (H31) チャイルドシート貸し出し数の増 102 件 (H26) →127 件 (H31) (追加)
-------------------	--

【主な事業内容】

- ・子どもが健やかに育つために、妊産婦への支援を充実し、出産・子育ての取り組みを推進します
- ・乳幼児のいる世帯への支援を充実し、子育ての取り組みを推進します
- ・地域特性、町民のニーズに沿った保育体制の整備促進を図ります
- ・親子・子ども等、誰もが安全・安心、快適な生活環境の整備を図ります

②自然・国際色豊かな地域性を活かした教育の充実

重要業績評価指標 (KPI)	英語教育事業参加（児童・生徒）人数 60 人 (H26) →100 人 (H31)
-------------------	---

【主な事業内容】

- ・豊富な自然に囲まれた地域性を活かした教育を推進し、郷土愛の涵養に取り組みます

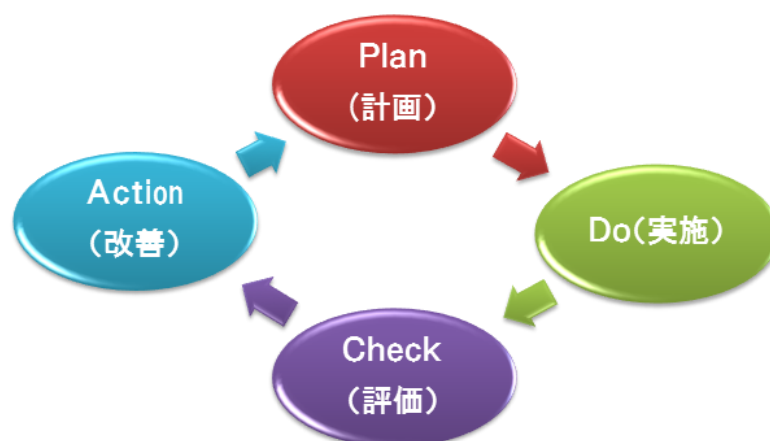
- ・国際色豊かな環境を活かし、町で過ごしながらか国際感覚や語学力を備えた人材を育成するため、教育現場において、英語に触れる機会を増やす英語学習の取り組みを推進します
- ・北海道後志総合振興局と連携して、グローバル人材の育成に取り組めます

第4章 総合戦略の推進体制

1. PDCAサイクルの導入

まち・ひと・しごと創生を実現するためには、従来の政策の反省の上に立ち、PDCAサイクルを確立することが必要です。具体的には、まず、効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していくことになります。

PDCAサイクルは、PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことをいいます。倶知安町においても、地域課題に基づく適切な短期・中期の政策目標を設定し、「倶知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗を検証し、改善するPDCAサイクルを確立することが重要です。



2. 地域間の連携推進

倶知安町では、観光分野をはじめ、地域間の広域連携を積極的に進めることとし、ニセコひらふエリア一体として課題に取り組んでいきます。北海道新幹線開業後には、羊蹄山麓のみならず幅広い地域の「玄関口」となることが求められています。

現状分析についても、広域連携分野においては連携エリア全体を考慮しながら行い、抽出された課題は「倶知安町まち・ひと・しごと総合戦略」に順次反映していきます。

3. 外部有識者の参画と施策の進捗管理

「俱知安町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に当たっては、俱知安町役場内に組織された「俱知安町まち・ひと・しごと創生推進本部会議」に加え、行政・産業界・大学・金融機関・労働団体・マスコミの代表と住民代表（産官学金労言）からなる「俱知安町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を設置し、ともに総合戦略策定を進めてきました。

総合戦略の実施に当たっては産官学金労言が連携し効果的な施策が実施されるように、PDCA サイクルに基づく効果検証を行うことが重要です。

平成28年度からは総合戦略に基づく施策事業の本格的な実施とともに、その評価・検証・改善等の進捗管理について、引き続き「俱知安町まち・ひと・しごと創生推進本部会議」と「俱知安町まち・ひと・しごと創生有識者会議」が連携し、必要に応じて施策・事業の見直しや総合戦略の改訂を行い、総合戦略の目標達成に向けた効果的な取り組みを推進します。